ため池の築造と増築

水不足に悩まされてきた地域では、ため池の築造や増築が行われてきました。そのためには労力や資金が必要ですので、関係者の合意がなければなりません。干ばつを契機に、地域のリーダーが人々を導いてため池の築造や増築を進めてきた例として、高知県香南市の新池と香川県坂出市の宝池をご紹介します。

■新池の築造（高知県香南市）

野市町（現香南市）東佐古上分地区は山岳地帯で、水利の便が悪く、古来よりしばしば干ばつ被害を受けてきた土地柄でした。明治 26 年（1893）6 月 24 日～8 月 4 日と翌明治 27 年 6 月 24 日～7 月 21 日及び 7 月 25 日～9 月 1 日の間には全く降雨がなく、地面が裂けるような干ばつが続きました。稲は枯れ、地は原野と化し、家潰れ者が続出する有り様でした。そこで、国吉辰三郎や永森徳馬など地区の有志が協議して地区民に諮り、用水池構築を決定し、新池と命名することにしました。新池は明治 28 年 2 月に起工し、明治 30 年 4 月に竣工しました。延べ出役人数 4,651 人、工事費として米 302 石 1 斗を要しましたが、これにより東佐古上分の農民は大きな恩恵を受けることになりました。小山池の畔に新池建設記念碑が建立されています。＜野市町史編纂委員会編「野市町史上巻」1992 年＞

新池建設記念碑

小山池（かつての新池）

（地理院地図に加筆）

■宝池の増築（香川県坂出市）

坂出市府中町赤尾には赤尾池、宝池、セビ池という 3 つのため池があります。文政元年（1818）に高松藩がまとめた記録に、赤尾新池、赤尾大池、赤尾西池の 3 つのため池が記載されていますので、それぞれがどの池に符合するかは特定できませんが、江戸時代から赤尾谷に 3 つのため池があったことは確かのようです。昭和 14 年（1939）は春から降雨が少なく、7 月には稲の枯死する田地が多く見られるようになりました。そこで、府中村（現坂出市）赤尾の平田兵七はかねて構想していた新池増築を人々に諮り、昭和 14 年 12 月に起工し、幾多の困難を乗り越えて翌昭和 15 年 5 月に完成させました。宝池の堤防に建立されている平田翁功頌碑には「七町歩餘の常習旱田化して永久美田と安定せり」と刻まれています。＜讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年、坂出市史編さん所編「坂出市史通史下現代篇」2020 年＞

平田翁功頌碑

宝池

（地理院地図に加筆）